

高齢者叙勲 受章おめでとうございます



瑞宝双光章 沖野 昭三さん(88歳) 元公立中学校長

昭和24年4月に中学校教諭として着任し、平成元年3月八千代中学校校長を退職するまでの永きにわたり、教育に対する溢れる情熱を持ち、小学校教育・中学校教育の進展に寄与されました。

市議会議長に当選



7月19日(火)に行われた市議会議員選挙の結果、藤井昌之議員(63歳)が議長に当選されました。



市長コラム

第95回

江の川上流大規模氾濫時に於ける対策について 近年、激甚化する豪雨による河川の計画流量や計画高水位を超過する洪水が多発しており、今後地球温暖化等の影響を受け更に増える傾向にあります。こうした状況を受け、国は平成27年5月水防法を改定し、想定し得る大規模降雨での浸水想定区域図を公表しました。また、平成27年9月の関東・東北豪雨では、想定外の豪雨により、利根川水系鬼怒川の堤防が決壊し、多数の孤立者が発生する事態となり、大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方についてが審議されました。

本市を流れる江の川水系は、中国地方で最も大きな流域を持つ河川であり、山地部に降った雨は、江の川の沿線に形成された市街地に集中することから、大きな洪水リスクを抱えております。昭和47年7月豪雨では、堤防決壊による家屋浸水や倒壊など、本市も甚大な被害を経験しました。この災害を教訓として、昭和48年3月に降雨量300mm/2日/1/1000の確率規模を想定した江の川工事実施計画を策定し、基本高水を尾関山地黒流量10.200E/s、吉田地区2.200E/sと定め、築堤等の江の川の整備を進めてきました。昭和49年5月には、土師ダムが完成し、1.000E/sの洪水調節が可能となり、吉田地区流量は1.200E/s、尾関山地流量は7.600E/sに軽減され、治水に対する安全度はかなり高まりました。江の川に於ける河川改修事業は、これまでと同様に1/1000確率規模の整備計画に基づき推進されますが、本市では、無堤防地区の解消や内水対策等の重要事項が山積しています。

改定により、大規模氾濫時の対策が義務付けられました。江の川に於ける想定最大規模の降雨は、これまで既最大を記録した中国地方兵庫県の丸山川の降雨量479mm/2日を対象として考える事となりました。これは、江の川の対象流量の1.56倍、1/1000程度の確立の降雨になります。先般これに準じたハザードマップが国土交通省より、公表されたところです。仮に、本市でこの規模の洪水が発生すると、現況の堤防は破壊され、堤防の機能は全く無くなり、土師ダムも洪水の調節機能を失います。そして、電灯・電話等通信施設は麻痺状態となり、芸備線・国道54号線・県道・中国自動車道も混雑し、移動手段も麻痺状態になる可能性があります。さらには、これまで検討して来た通常の避難所では対応が出来ず、避難経路の確保もできない可能性があります。行政も対策本部の立ち上げが困難になることも考えられます。

本市では、国土交通省から公表されたハザードマップを検証し、それぞれの地域に於ける避難場所の再設定を検討して行きたいと思っております。避難場所を山地部に想定する場合は、土石流・山崩れ等の安全確認が必要となり、市内建築物を想定する場合には、耐震化等の構造物の強度の確認が必要となります。また、避難地区に誘導するための、道路の安全確認も必要になります。これらの検討を早急に行い、市民の皆様の安全の確保に努めて行きたいと思っております。市民の皆様の生命を守る事が重要であり、大規模氾濫を想定した平素からの訓練も必要になると考えています。



「ものを作る面白さ」を広めたい 初めまして、今年の4月から地域おこし協力隊として活動させていただいております。田中と申します。私の業務は主に安芸高田市に移住者を増やすことです。移住を検討されている方や、これから移住する方の対応をしたり、移住してもらうためのきつかけ作りを行っています。安芸高田市のことを知る事も勿論ですが、移住者としての自分の目線も無くない様に心掛けていきたいと思っております。 協力隊になつてからは「3年後」というキーワードを何回も聞くのですが、自分の中ではまだ、先の話のように考えていた部分もどこかにありました。しかし、気付けばもう9月……。 自分の3年後を考えると、ミッションの成果もあがることの大変さをジワジワと感じております。 プライベートの方では、元々やっていた3Dプリンターなどのデジタルファブリケーションの知識・経験を生かして、地域の協力してくださる方々と一緒に

「変だ」という自分に気づいて変わる中学生 前回(広報7月号コラム掲載)の続きです。中学生はアフリカでネズミを食べる番組を見た後、今度は身近なところでの食生活に目を向けます。例えば、タコを食べる文化とタコを食べない文化に良い悪いがあるかと問いかけると、「ない」と答えます。この過程を通じて生徒たちには、文化に良い悪いも無いのに、自分たちと違う文化にぶつかると思わず「変だ」とか「おかしい」と発してしまう自分たちに気づいてもらいます。そして、「変だ」と言われたほうが傷つくことにもです。その後、授業では文化とはどのようなものかなどを説明し、最後にこう問いかけます。「自分たちが違うものに出会った時に『変だ』というのはどういう時だろうか」と。 その答えは、多くの場合が、相手を見下したり、仲間はずれにしたい時です。 人間は異文化を理解しようと思っても、自分たちの文化と違うものに出会うと違和感を覚えます。それは避けられません。しかし、口に出すか否かは、自分でコントロールできます。大事なことは、その違和感を口にするかしないかです。日本では、自分たちと違うものを見つけると、その違いを受け入れるのではなく、「変なもの」と安易に否定します。これは、本当に正しい行為なのでしょうか。授業後の感想で「クラスで自分とちよつと違うことをする同級生に、自分は『変だ』と言っていた。今回の授業を受けて、そういうことを言わないようにしたいと思う」と書いてくれる生徒がたくさんいます。同級生の食べ物、習慣、言葉遣いなどを見て「変だよ」という言葉が教室からなくなればよいなと思っております。これが異文化理解の第一歩です。(文：県立広島大学 上水流 久彦 准教授 イラスト：ロナルド・スチュワート 准教授)

「ものを作る面白さ」を広めたい 初めまして、今年の4月から地域おこし協力隊として活動させていただいております。田中と申します。私の業務は主に安芸高田市に移住者を増やすことです。移住を検討されている方や、これから移住する方の対応をしたり、移住してもらうためのきつかけ作りを行っています。安芸高田市のことを知る事も勿論ですが、移住者としての自分の目線も無くない様に心掛けていきたいと思っております。 協力隊になつてからは「3年後」というキーワードを何回も聞くのですが、自分の中ではまだ、先の話のように考えていた部分もどこかにありました。しかし、気付けばもう9月……。 自分の3年後を考えると、ミッションの成果もあがることの大変さをジワジワと感じております。 プライベートの方では、元々やっていた3Dプリンターなどのデジタルファブリケーションの知識・経験を生かして、地域の協力してくださる方々と一緒に

地域おこし協力隊 リレーコラム vol.13 田中賢さん(企画振興部政策企画課)

「ものを作る面白さ」を広める活動をしております。ものを作ると言っても、工業製品を作るわけではなく生活の中で使うちよつとしたものを作る場です。例えば、自分でデザインするスマホケースや、カップホルダー、小さいスピーカー、作業中にYoutubeを観るだけのディスプレイなどです。(※自分の欲しいもの) 現在は、Fahlab Hiroshima-Akita(吉田町)とモノづくり広場(向原駅)で主に活動させていただいております。 私だけではなく、協力してくださる方々もそれぞれ専門の知識を持たれている方々なので、家の近くにこんな環境があるのは、かなり贅沢なことだと私は思います。興味があるだけで大丈夫ですので遊びに来てもらえたらと思います。 追伸・高校・大学と彫刻をずっと学んできて、安芸高田市に越えてきてからも制作活動をしていきたいと思っております。(主に金属彫刻) もし同世代の作家の方がいらつしやったらぜひ交流させてもらえたらと思います。